



Title	保健所クリニックで実施する予防接種業務の改善（第2報）
Author(s)	大阪市都島保健所保健予防課
Citation	大阪公衆衛生. 1960, 7, p. 8-10
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84691
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

保健所クリニックで実施する

予防接種業務の改善（第2報）

大阪市都島保健所 保健予防係

はじめに

本誌（第5号34年9月）で、予防接種業務についての改善案をできるだけ詳しく説明して、その効果判定を行なったのですが、何分にも短期のものであるため満足すべき結論を得るだけの資料も集められず、不十分な結果に終わっております。

そこで、今回は前のレポートに対する反省とその後の資料に基く効果判定を行なったので、その結果について報告します。

1. 接種完了率と接種率について

恐らく前のレポートをお読みいただいた方にとって最も関心事だったことは、以後の成果にあると思います。果してあのような方法が効果的であったかどうか、合理的だったろうか、とお思いになっておられることでしょう。

これについては第1表、第2表を御覧いただければ明

らかなように34年度はおよそ私達が期待しただけの成果があったと思っています。

すなわち、第1表にみられるように、ジフテリア・百日せき混合ワクチン接種完了率は34年度後期において75.1%となり、日割表使用前の33年度前期ジフテリアと比べて9.5%、百日せきとくらべて27.5%向上しております。もっともこれは単味ワクチンから混合ワクチンに切換えたために延回数が減少したためとも考えられるのですが、この反面34年度後期の対象数が1,054名であるにも拘らず、1回目接種者が、1,246名となり、対象数を192名も上廻っています。さきに予防接種をうけはじめて（1回目だけをうけて）途中で中断してしまい、2～3カ月後に新たにうけ直したものをも含むためです。、1回目接種者の数が対象数を上廻って接種していることになるわけです。

第1表 百日せき、ジフテリア接種数及び完了率の比較

種 別 年 度	ジ フ テ リ ア			百 日 せ き			ジフテリア、百日せき混合		
	1 回 目	3 回 目	完 了 率	1 回 目	3 回 目	完 了 率	1 回 目	3 回 目	完 了 率
32 年 度	1,090	502	46.1%	1,036	459	44.1%			%
33年度前期	578	379	65.6	597	284	47.6			
33年度後期	758	540	71.2	757	529	69.9			
34年度前期	407	293	72.0	375	225	60.0	472	326	69.1
34年度後期							1,246	935	75.1

次に接種率についてですが、これも第2表に示すとおりで、三種目について80%を上廻ったことからまづその効果はあったものと考えます。また前報の資料はすべて実施後7カ月間のもので、どちらかというと資

料としては不十分ではありましたが今回の資料はその後さらに一年を経たものですから、一応信頼のおける資料になると考えます。

第2表 昭和32年度～34年度種別接種率比較

年度	種 別		種 痘		ジ フ テ リ ア				百 日 せ き			
	地区別				大 阪 市		都 島 区		大 阪 市		都 島 区	
	接 種 率		接 種 数	率	接 種 数	率	接 種 数	率	接 種 数	率	接 種 数	率
32 年 度	25,183 42,147	59.7%	1,075 1,582	67.9%	11,913 42,147	37.0%	502 1,582	31.7%	6,267 42,147	14.9%	459 1,582	29.0%
33 年 度	30,189 46,961	64.3	2,010 1,883	106.7	18,167 46,961	38.7	919 1,883	48.8	13,347 46,961	28.4	813 1,883	43.2
34 年 度	26,034 46,925	55.5	1,837 1,842	99.7	23,163 46,925	49.4	1,573 1,842	85.4	19,581 46,925	41.7	1,505 1,842	81.7

2. 実際の業務能率はどうなっているか

まず第一にジフテリア、百日せきが各々単味ワクチンであったのが混合ワクチンになり、当所では34年5月頃から8月までに切換えを完了し、秋からは従来の三本立て（種痘、ジフテリア、百日せき）だったのが、現在は二本立て（種痘、混合ワクチン）になったため、事務量は減少し、医師、介助者の煩雑度も減ってきております。それに1年7カ月の時間の経過による慣れも手伝って比較的楽になっています。

ちなみに、接種数の33年度の最高時は423名でしたが、34年度は397名と減少しておりますし、また第3表にみられるように日割表使用前の33年度前期が一会場平均95名と労多くして功少なしの観があったのが、33年度後期（日割表使用後）には一会場当たり255名と飛躍的に増加し、保健所クリニックにおいて統合して集合接種を実施した効果がみうけられます。また34年度は混合ワクチンに切換えたために、全体の接種率は向上しましたが、一会場平均180名と減少しています

第3表 年度別一会場当たり実施数

年 度	会場設置回数	接 種 人 員					一会場当たり 平均接種人員
		種 痘	ジフテリア	百 日 せ き	ジフテリア 百 日 せ き 混合	総計(延人員)	
33 年 度 前 期	44	719	1,448	1,302	—	4,188	95
33 年 度 後 期	29	1,291	2,462	2,361	—	7,405	255
34 年 度	51	1,837	668	643	4,506	9,491	186

註 総計（延人員）＝（種痘×2）＋ジフテリア＋百日せき＋ジフテリア、百日せき混合

一会場当たり平均接種人員＝ $\frac{\text{総計（延人員）}}{\text{会場設置延回数}}$

上記の数はすべて第一期分についての延数です。従って種痘第二、三期、ジフテリア第二、三、四期、百日せき二期は含んでおりません。

3. 結論と反省

以上で、私達が過去1年7カ月にわたって行なってきた予防接種業務についての具体的効果判定を試みましたが、とに角効果のあったことは事実です。

ここで私達は何故にこのように成果をあげ得たのかという点に目をうつして考えてみますと、これらを列挙すれば、

1. 日割表を使用するようになって、全般に予防接種への関心を高めさせたこと（このため接種完了率が向上してきたと思われます）
2. 月一回の母親教室を利用して普及活動を行なっ

ていることや、日常の育児相談日での指導の徹底が矢張り予防接種への関心を深めたこと。

3. 母子手帳交付の際に「保健所案内」を渡していることが、保健所全般のP.R.になり将来母親となる人に色々な予備的知識を与えることにもなっていると思われます。

4. はがきによる個人通知の励行によってややもすれば忘れがちになるところを再認識させるようにもって行ったこと。

これらの諸条件が加わり相互関連して全般に効果をあげ得たのだと思います。とに角、前報でもむすびで

述べましたように保健所自体のP.R.とこれに附随して予防接種の普及を絶えず、しかも何回となく繰返して行なうことにあつたと思います。

4. 今後の課題

しかし、これで私達は予防接種について完全になったと考えることは早計で、まだまだ多くの新しい問題が起つてきているわけです。すなわち、

1. 第1期の初回免疫は可成りその目的を達することが出来ましたが、第二期の追加免疫はまだまだというところだ。
2. 今までは全くのところ、対象者の把握は人口動

態出生票のみにより、被接種者の管理が行なわれていなかった。

3. また開業医で独自に実施した分については、完全な報告が得られないために、その被接種者の把握が十分でないうらみがある。

というように色々問題点が残っています。その中で最も大きな点は矢張り対象者を確実に把握することにあると思います。このためには、該当乳児の個人カードの完備によって予防接種だけではなしに、全ての面での健康管理カードにして行く必要があるかと思ひます。

第3回公衆衛生大阪大会開催要綱決る

かねて企画中であつた本年度の公衆衛生大阪大会の開催要綱はこの程次の通り決定された。

趣 旨

この大会は、公衆衛生思想に対する啓蒙と普及を図り、健康で文化的な府民生活の確立に寄与することを目的とし、これがため公衆衛生の各分野の関係者が一堂に会し、それぞれの分野についての研究発表並びに討議を行なうことにより新しい知識の修得に寄与せしめるとともに併せて多年公衆衛生事業に献身的な活動を続け、その功績が顕著であるものを表彰し、もつて関係者の士気を鼓舞する。またこの大会では公衆衛生に関する大阪の世論の結果ともいふべき決議、宣言を行ない、わが国公衆衛生の飛躍的發展を期するため、これを関係要路に強く要請するとともに近く兵庫県において開催される第四回全国公衆衛生大会に付議しもつて与論にうったえんとするものである。

1. 期日及び場所

(イ) 分科会 9月26日(月)～30日(金)
府立大手前会館講堂

(ロ) 大会 10月3日(月)
府立大手前会館大劇場

主 催 大阪公衆衛生協会

後 援 大阪府、大阪市

協 賛 大阪府市長会他30団体

参 加 者

地区衛生組織関係者 公衆衛生事業関係者

学校保健関係者 公社、事業場労働衛生関係者

後援及び協賛団体関係者

2. 分科会 会場 府立大手前会館3階講堂

分科会の開催についての準備は、大会役員中より適宜関係分科会を担当してその運営に當ること。

日	時	分科会	テーマ	内 容
9月26日(月)	午前9時 午後4時	第1	母と子の健康	母子衛生、学校保健、伝染病
9月27日(火)	午前9時 午後4時	第2	成人の健康	成人病、結核
9月28日(水)	午前9時 正午	第3	心の健康	精神衛生
9月29日(木)	午前9時 午後4時	第4	住みよい環境	食品衛生、環境衛生、伝染病、地区組織
9月30日(金)	午前9時 午後4時	第5	医療保障	社会保険と医療機関及び保健所

大会スローガン

じょうぶなからだ あかるい心

3. 大 会

日 時 10月3日(月)午後1時～4時

会 場 大手前会館大劇場

次 第

1. 開会の辞

2. 挨拶

3. 表彰

4. 来賓祝辞

5. 協議

(イ) 議長選任

(ロ) 分科会報告

(ハ) 討 議

(ニ) 決 議

6. 大会宣言

7. 閉会の辞

8. アトラクション